

【評価方法】

- ・ 2年間のフォローアップ結果を踏まえて、行動計画2023における3箇年の取組内容をA～Dの4段階で評価した。（Cを標準）
- ・ KPI（重要業績評価指標）により、最終的な目標達成に向けた取組内容のパフォーマンス状況を把握した。

【全体評価】

評価	総評
B	全ての取組で目標を達成できており、ICT施工の普及促進に向けた環境づくりはできた。今後もICT施工普及促進のため、継続して取り組んでいくことが重要である。

課題 1	課題解決の方針 A	行動計画		目標指標		2023実績 (目標)	2024実績 (目標)	3箇年のまとめ	評価	総評	
	人材育成	ICT活用工事に関する技術講習会や技術研修等の充実と開催・継続および受講の促進	①	技術力向上のための講習会・研修会の実施	各種講習会等の開催数及び時間	202回 (100回)	239回 (100回)	産官で受注者の技術力向上を図る講習会・研修会を開催しており、開催回数・開催時間ともに目標を大幅に達成した。一方で開催頻度については地域差がみられた。講習内容としては、ICT施工の概論、3次元設計データ作成、及びICT建設機械による施工に関する内容が多かった。	A KPI：大幅に達成	年間200回以上開催し、希望者が受講しやすい環境は整った。一方で地域や企業間の導入格差が広がっており、それぞれのレベルにあった講習内容の検討が必要である。	
②			発注者の技術力向上を促進するための技術研修の強化	技術研修の開催数	676時間 (200時間)	810時間 (200時間)	産官で発注者向けの技術研修を開催しており、目標も大幅に達成した。一方で開催頻度については地域差がみられた。	B KPI：達成			連携会議全体では年間100回近く開催し、発注者の技術力向上に寄与した。今後は研修内容の高度化やフォローアップが必要である。
③			社外教育を要請できる制度の積極的な活用	社外教育を要請できる制度の活用件数	59件 (27件)	49件 (27件)	ICTアドバイザー制度を中心に社外教育を要請する制度は活用されており、目標を大幅に達成した。	B KPI：達成			ICTアドバイザー制度の運用により、年間50件程度の活用があり、社外教育を要請できる環境を構築できている。要請を受ける企業や地域が一部に集中している傾向がみられる。
	課題解決の方針 B	行動計画		目標指標		2023実績 (目標)	2024実績 (目標)	3箇年のまとめ	評価	総評	
	建設産業の従来イメージの打破による若年入職者の獲得	①	土木工学系を専門とする人材への積極的アプローチによる新規入職者の獲得	技術講習会等への参加案内やインターンシップ・出前講座・就職説明会・企業説明会など学校への活動回数	505回 (300回)	670回 (300回)	官の全ての団体と産の半分以上の団体で実施しており、目標を大幅に達成した。開催内容は高校生・大学生向けのインターンシップ、出前講座及び就職・企業説明会が多く、現場体験会などを実施している団体もある。	B KPI：達成	土木分野の人材に対して年間500回以上の活動が実施され、継続した活動ができる環境が構築できた。開催内容も体験型のアプローチを実施したりする創意工夫が見られる。		
		②	土木工学系以外を専門とする人材へのアプローチによる異分野（情報通信工学系等）からの新規参入を促進	建設産業ガイダンス等の活動や出前講座・就職説明会・企業説明会など学校への活動回数	243回 (60回)	249回 (60回)	産官で実施され目標を大幅に達成した。開催内容としては一般的な出前講座や就職説明会も多いが、見学会や電子コミックの配信などのカジュアルな方式で実施している団体もあった。対象も小中学生から大学生まで幅広く、専門外人材獲得のための創意工夫が図られた。			B KPI：達成	やり方を工夫しながら、学生を含めた幅広い土木分野以外の人材に継続してアピールできる環境が構築できた。今後はこれを継続していくことが必要である。

i-Construction推進の行動計画2023 取組評価表

課題	課題解決の方針	行動計画	目標指標
管理 基準・ 積算 基準類	C	① 円滑な出来形管理が実施できるよう各種管理基準・要領等の理解を促進する体系的な整理提供および説明会の実施	[産] ICT施工に係る基準等の不明確点の収集・報告 [官] 不明確内容の整理・解説の提供の実施
		② 各段階における必要経費の算定基準の柔軟な設定	必要経費の実態把握調査の実施
		③ 施工管理の二重管理（紙+電子）防止の徹底	[産] 施工管理の問題事例の収集・報告 [学・官] 問題事例の整理・改善案の提供
		④ 発注時における3次元設計データの確実な受け渡し	3次元設計データの貸与の実施

2023実績 (目標)	2024実績 (目標)	3箇年のまとめ	評価	総評
11件 (10件)	22件 (10件)	各発注機関で手引き、基準、要領等の改訂や講習会を通じた説明を実施した。不明確点の収集・報告の実績は少なかった。	B KPI：達成	報告件数は少ないが、継続して収集・報告していくことはできている。課題としては体制上の制約が挙がっており、継続性のある仕組みづくりも考えていく必要がある。
8回 (7回)	9回 (7回)	実施している団体は少ないが、積算基準の見直しを実施している団体はあり目標は達成した。各団体から実施するハードルが高いとの意見があった。	C KPI：改善の余地あり	目標を達成できたことで一定の評価はできる一方で、実態調査が網羅的に実施できているわけではないので、今後とも継続して調査を行っていく必要がある。
1件 (0件)	0件 (0件)	R6年度において、報告が0件となり目標を達成した。	B KPI：達成	問題事例の報告がなく、目標を達成できた。今後も施工管理における二重管理の課題を把握していくことは必要である。
51件 (42件)	52件 (42件)	国交省でのBIM/CIM原則適用となったこともあり、複数の発注団体において3次元設計データの貸与を実施し、目標は達成した。	B KPI：達成	3次元設計データの貸与件数は継続して50件以上と目標を達成しているが、運用は限定的である。別途実施した調査では、受発注者双方の理解が十分でなく、設計段階での3次元化やBIM/CIM未導入等が普及の阻害要因となっており、段階的導入と理解促進が必要である。

課題	課題解決の方針	行動計画	目標指標
施工規模・ 施工条件	D	① ICT活用工事に適した施工規模・施工条件の整備	[官] 公告件数に対するICT施工の実施割合
	E	① ICT施工データの維持管理への活用促進	維持管理にICT技術を活用した事例の収集

2023実績 (目標)	2024実績 (目標)	3箇年のまとめ	評価	総評
19% (15%)	18% (15%)	各団体で普及促進方策を進めたことにより、目標を達成した。	B KPI：達成	ICT活用工事の実施割合は15%以上を継続して達成できた。今後は中小規模事業者への展開強化と、実施しやすい条件整備を進め、継続的な普及促進を図る必要がある。
48件 (7件)	51件 (7件)	実施団体数は少ないが、目標は達成できた。活用内容としては、橋梁などにおけるドローン撮影・AI画像解析、車載簡易装置による道路点検システム等が挙げられた。	B KPI：達成	維持管理分野におけるICT活用は、継続して50件程度実施されており目標を達成できた。しかし、施工で得られたICTデータを維持管理へ本格的に活用する段階には至っていないため、収集事例を利用して維持管理分野への拡大が望まれる。

課題	課題解決の方針	行動計画	目標指標
広報・普及	F	① 経営者層に対してICT施工機器等の調達費用に関する様々な支援制度の積極的な周知の実施	各種支援制度の周知回数
		② 施工事例の収集・共有・紹介	各種事例の収集
		③ ICT活用にあたっての課題の整理と改善提案	起工測量から監督・検査に至るまでのICT施工プロセスにおける各種課題の収集・整理

2023実績 (目標)	2024実績 (目標)	3箇年のまとめ	評価	総評
52回 (27回)	54回 (27回)	経営者層に絞った周知というよりは、講習会において参加した経営者層に向けて周知を行ったりすることで目標を達成した。	B KPI：達成	各種支援制度の周知は、講習会・研修等を通じて継続して50回以上実施できている。組織体制や人員等により十分な対応が難しい場合もあり、地域格差等も考慮していく必要がある。
248件 (60件)	168件 (60件)	産官により、目標を大幅に超える事例数を収集した。	B KPI：達成	ICT活用事例の収集は、産学官連携会議が主体となり目標を大きく上回る収集が実施できている。今後もメリット・デメリットを含めた質の高い事例収集とその活用（共有）を継続して実施する。
123件 -	164件 -	各団体が、アンケート等により、ICT関連機器の調達費用や人材不足、官積算との乖離に関する課題等を収集した。	B KPI：達成	ICT施工プロセスにおける課題の収集・整理は、アンケート等を通じ継続して100件以上実施できた。今後も実態調査を行い、改善提案につなげていく。